

まず始めに、私が台湾研修に行こうと思ったきっかけ、目的は、学校で学んでいる服飾の分野において学べるものが多くあり、学びと共に刺激や発見を求め研修に参加することを決めました。また、これからのウェディングドレスを授業で製作するのに、台湾では布や装飾品が種類豊富に安く手に入るということを先生方や先輩からお聞きしたので、台湾に行き買いたいと思いました。参加を決めた目的として今のような理由が挙げられますが、他にも理由があります。海外に私は人生で一度も行ったことがないので、日本との生活文化の違いや食文化の違いを実際に見たり触ったりして感じて、さらに台湾という国の文化も同時に学ぶという気持ちもあり参加することを決めました。

食文化の違いについて

食事はまずテーブルが日本と違い、日本でも本格的な中国料理のお店だとみられるとは思いますが、中央に回転するテーブルがあり大皿に盛られてくるおかずを順番に自分たちでとって食べました。どこに行ってもその風景は変わらず、最初は慣れていないため食べにくさを感じたが慣れると食べやすさも感じました。また、味では香辛料が多く使われていました。しょうゆなどの調味料は日本でもあるが味は全く異なり、しょっぱさは少なく逆に甘く感じました。味付けで辛くしてあるものもあったが多くは甘いという印象を受けました。特に驚きだったのが、緑茶に砂糖が入っていたのには驚きを隠せませんでした。小龍包は食べてみたかったのでとても楽しみにしていました。食べ方はお酢と醤油を入れて食べて、そのお酢と醤油の比率が重要でした。また、人生初めての北京ダックを食べることもできとても感動しました。



故宮博物院について

博物院では昔使用されていたものが展示されていて、有名な白菜などは見ることはできませんでした。しかし、昔の人がおもちゃとしていたものがとてもすごかったです。球体の中に球体が入っていてさらに球体、というようにたくさんの球体からできていました。球体はただの玉ではなく、柄も細かく入っていてものすごい技術でした。1世代では完成することはなく、3世代に渡ってつくられているということでした。それを完成させるためにこの技術者は人生をささげたのだと思うとさらに感動が高まりました。手を抜くようなことは一切できないようなものであり、見る人を惹きつけるものというのはやはり簡単な事ではないと改めて感じました。また展示されているものの多くには竜の柄が多く見られました。私が知っている竜の柄といえば、ラーメンどんぶりについているような柄を連想しましたが、現代の中国や台湾に対する竜のイメージというのは古代の人々から変わらず受け継がれているものだと思います。

実践大学訪問について

実践大学ではまず始めに服飾関係の講師のお話を聞くことができました。大学ではどのような仕組みで勉強しているのか。テストは、知識も必要だし技術のテストも行われているということでした。私たちの学校では完成した作品を最終的に提出し評価を受けるような形ですが、実践大学ではスピードも意識して作るということをしていました。将来的にはデザイナーを目指している学生であっても、基本的な服の仕組みや素材の知識や技術がなければデザインすることはできないために、必ず全員がつくらなければならないと言っていました。私は、在学中に三着しか作っていないけれど、実践大学の学生は前期の段階で三着ほどは作るということをしていました。ただ完成すればいいということではなく、経験をできるだけたくさん積み、技術を身に付け、スピードも意識した作りをしなくてはならないということをしていました。

さらに実践大学では、素材研究の勉強を一年生のうちにやるといいます。素材を学ぶことで、素材の個性や特徴を知ることでき自身がイメージしている作品にはどの素材が適しているのかなどもすんなり考えることができると思います。また、異素材の組み合わせで服を作るというのも勉強の一つとしてあるそうです。異素材の素材を使って服を作るというのは全然想像がつかないけれどその勉強もすることでイメージの幅が広がりより良い作品を生み出すことができるのではないかということをしていました。なので、私も様々な素材の種類を知り、特性なども勉強しなければいけないと思いました。

ショーでは、どのようにテーマを決めているのかという点では、実際にブランドになるようなコンセプトを一人一人が持っているということでした。その為改めてテーマをはじめから決めていないと言っていました。決めることで個性が薄れてしまい同じような作品に仕上がってしまうので決めないということでした。一つのテーマに対して二人一組でショーを行うと言っていました。なので、一つのテーマに作品は一人二着作るそうです。その理由

は、ショーを成功させるためには良い作品はもちろん必要だが、チームワークも大切である。コミュニケーションをしっかりとれるようにするために二人でチームを組むといいます。私たちのショーでは5・6人でチームを組むことが多いのですが、その際にすんなりチームワークよく進むかといわれるとあまり上手くいかないときもあります。私たちも、もっとコミュニケーションをうまくとり最高のショーをつくれるようにしていきたいと思いました。

実践大学では、服飾分野以外にもソーシャルメディアの方にもお話を聞くことができました。ソーシャルメディアでは私が想像していた映像ももちろんありましたが、表現の一環として身体表現も学びの一つとして行っていると言っていました。身体表現は道具も手作りで作られていてこだわりが強いという印象を受けました。また技術の面では、関心のあるものを自らが研究して作品をつくりあげていて、特に音楽を奏でる仕組みを研究し楽器を作った学生の映像は素晴らしかったです。

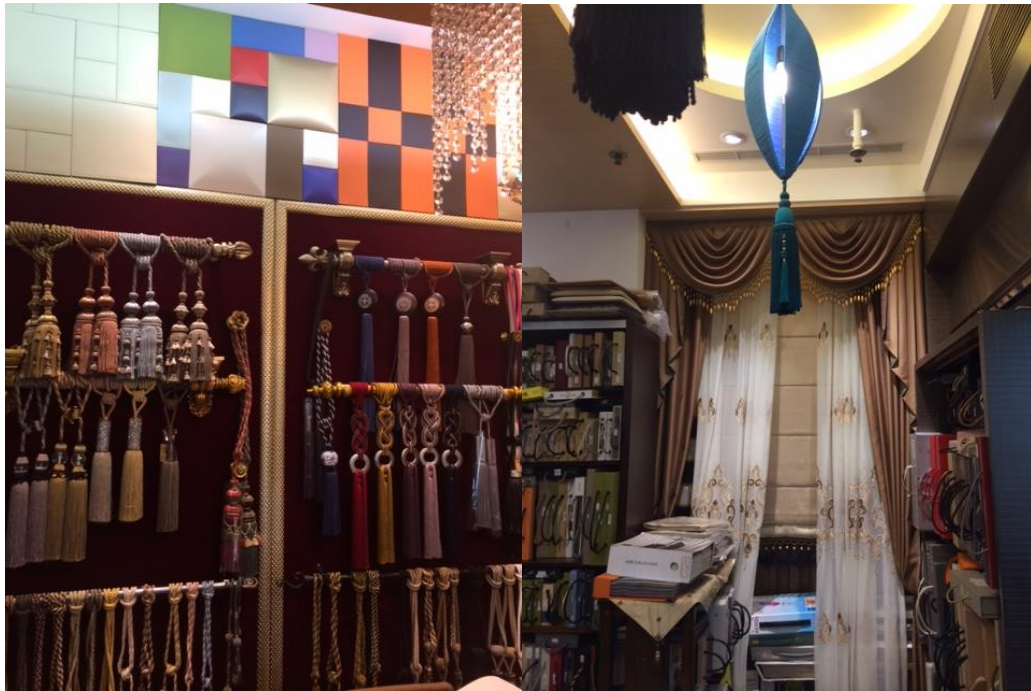
実践大学では、どの分野においても自分自身が学びたい、技術を身に付けたいという強い気持ちが必要だと思いました。明確には決まっていませんが、どの道に進むのにも今の学べる環境で妥協せずにこだわりや研究意欲を持って取り組もうと思いました。



布市場について

私が事前に考えていたデザインのイメージ画と実際に買い揃えて最終的にイメージしたコンセプトは、布市場についたとたん全く異なりました。実際にたくさんの布や装飾品見ると自分自身が想像していたものとは違う想像が広がりとても楽しかったです。こんなにも布に囲まれたのは初めてでたくさん服を作りたくなりました。正直なところ4時間などでは時間が足りずもっと見ていられました。布の種類などにも圧倒されましたが、悔しかったのが言葉の壁です。布を買う際に中国語が全然話せず困りました。授業で中国語は受講していましたが買い物をする際に使える用語を事前に勉強しておく必要があると感じました。

しかし、先生の助けもあり無事に買うことができ、後期の作品の意欲が高まりました。実際にたくさんの物を見たり触ったりというのはイメージを膨らませるためにとても重要であると改めて感じました。



c

松山文創園について

ここでは学生が実際に作った作品も展示されていたなかでも注目したのがひとつひとつの作品のこだわりです。コンセプトもしっかりと目に分かるように伝わり素晴らしく感動しました。パッケージなどももちろん自分の譲れないところもありますが売るといことも考えて作られているのではないかと思います。



西園 29 服飾創作基地について

ここではデザイナーを育成して世界の舞台に立つデザイナーの援助をしているところでコンテストに出て、素晴らしい賞をもらっている作品を生で見ることができました。近くで見るととてもきれいで発想もユニークでひとひねりでは想像のつかないような作品でした。また、わたしはスポーツで使われる素材や服に興味があるのでスポーツ用の服がつくられる工程や機械を見ることができました。スポーツには普通の服には使われないような素材や工程を踏まなければいけないのでさらに興味がわきました。



最後にこの研修で学んだことは、個性的でありかつ実用性もあり、人々に愛されて感動を与える素晴らしい芸術作品は様々な技術や人材、また人とのつながりや援助などもあってつくられているということを思いました。私たちが日常で買っている服などもデザイナーがいてパタンナーがいてなど工場見学もとおして社会のモノづくりの仕組みも知ることができました。またモノを作るというのは、簡単な事ではないし努力や様々な知識技術がほどこされ素晴らしい作品になっていました。自分自身の大学での学びはどちらかというと受け身の学びであつたけれど、目的や目標をもって積極的に学んで知識も技術も高めようと思えることができました。今回の研修の目的である台湾の文化も学ぶことができて初海外でのマナーも学ぶことができました。研修で得た衝撃や感動、発見などは忘れずにこれからの芸術作品につなげていきたいと思いました。